

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	生産性小委員会	主 査 名：三根直人
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (建築生産運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2001年 4月 ~ 2004年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	設置の目的： 生産性のデータを生産現場でどのように適用すべきかを考える、歩掛りで表される労務生産性中心の概念からより広い建築の新しい生産性の概念を構築する、の2つである。このために、生産性データ適用WG、生産性の新しい考え方WGの2つのワーキンググループを設けて、WGの活動を主体に小委員会を運営してきた。2001年度：小委員会設置の目的の理解と各WGの活動計画作成、2002年度：WGによる調査、2003年度：調査結果の分析とシンポジウムの準備、2004年度：まとめとより発展させた小委員会の設置準備。	
委員構成 (委員名(所属))	三根直人(北九州市立大学) 安藤正雄(千葉大学) 嘉納成男(早稲田大学) 小林謙二(関東学院大学) 岩下 智(鴻池組) 土橋稔美(鹿島) 三浦延恭(国土館大学) 宮島金吾(フジタ) 岩沢成吉(長谷工) 平田幸光(佐藤工業) 大沢幸雄(大成建設) 瀧 諭(清水建設) 香月泰樹(戸田建設) 後藤礼彦(竹中工務店) 浜田耕史(大林組)	
設置WG (WG名：目的)	(1) 生産性データ適用WG：生産性のデータを生産現場でどのように適用すべきか検討する。 (2) 生産性の新しい考え方WG：歩掛りで表される労務生産性中心の概念からより広い建築の新しい生産性の概念を構築する。	
2003年度予算	150,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2つのワーキンググループは1ヶ月に1回の頻度で委員会を開催した。両ワーキンググループとも7割の委員が参加。小委員会は2ヶ月に1回の頻度で開催。参加者は6割程度であった。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 2つのワーキンググループは2001年4月~2003年3月までの研究成果を報告書に纏め2003年3月に事務局に提出した。 生産性データ適用WGは、前回の小委員会で行なったアンケート調査を再分析して生産性データが企業のどの部署でどのような場面で使われているかを明らかにすると共に、建設業を含む数社でヒヤリング調査を行い、生産性データがどのように使われているかを把握した。 生産性の新しい考え方WGは「より広い視点から生産性を捉える」ことを意図し、生産性の新しい概念に関して事例調査を行った。19の事例について4つの視点から類型化を行なった。建設業への適用性による類型化では、時間生産性、Rethinking constructionなど3つの適用性が高いことを明らかにした。分析結果を基に建設業に求められる生産性の新しい考え方について3つの提案を行なった。 研究成果をもとに第3回目の「建築生産における生産性を考える - より広い概念構築に向けて - 」を開催した。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) ワーキンググループを主体に活動する事を意図し、この成果を基本にシンポジウムを開催することを小委員会の目標として活動を行い、無事、当初の目標を達成することが出来た。
その他評価すべき事項	生産性データ適用WGの精力的な活動と共に、当初、かなり難しい課題と考えていた、「生産性の新しい考え方」に対してワーキンググループの各メンバーが積極的に活動したため、予想以上の成果を出すことが出来た。2つのワーキンググループの積極的な活動が目標を達成できた一番の鍵であった。